

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

番号	テーマ(演題)	概要	講師	時代等
1	とっとり文化財紀行	仏像、建造物、史跡、民俗芸能など、県内に残る文化財を紹介しながら、歴史遺産(文化財)からみた鳥取の歴史と文化を語ります。近代化遺産など最新の文化財の世界の広がりについてもお話します。	中原	概説
2	とっとり古代びと、千年の記憶 ～妻木晩田遺跡・向山古墳群・上淀庵寺～	霊峰大山の麓・淀江の地は、古代出雲世界の東の玄関口でした。ここには弥生時代の妻木晩田遺跡、古墳時代の向山古墳群・石馬、飛鳥時代の上淀庵寺といった、約千年間も繁栄した遺跡が数多く残されています。これらの遺跡の発掘調査成果を通して、この地に残された古代びとの記憶(歴史)をたどりま。		
3	県内出土の古代繊維について	青谷上寺地遺跡出土の繊維をはじめとした、県内出土古代繊維の概要について紹介します。	原田	
4	発掘調査からみた古代の鳥取について	鳥取県内の発掘調査の成果を中心に、古代の鳥取の様子について身近な遺跡を中心に説明します。	八峠	
5	鳥取民窯のルーツをさぐる ～鳥取藩内で生産されたやきもの～	幕末期の鳥取藩内では、因久山焼、牛ノ戸焼、浦富焼、浜坂焼、日下部窯など、多数のやきものが生産されました。窯跡から出土した陶片などからその歴史や製品の特徴について解説します。		
6	古代・中世の食事の話 ～グルメな古代・中世の人々～	広大な中世の畠跡が見つかった長瀬高浜遺跡など、食糧生産跡が見つかっている鳥取県。それらの発掘調査成果をふまえ、意外にグルメな古代・中世の人々の食事について解説します。	中山	
7	「倭人の食卓」に学ぶ	国史跡青谷上寺地遺跡や妻木晩田遺跡から出土した弥生時代の食材関連資料をもとに「倭人の食卓」を想像し、食の意味、重要性、そして将来を考えます。	濱田	
8	鳥取県の庭園文化史	県内の庭園文化の変遷のあらましを、国内の庭園の変遷と比較を行いながら、述べていきます。	小山	
9	考古学の基礎の基礎(新)	鳥取県の事例を取り上げながら、旧石器時代から古墳時代の大まかな歴史の流れ、生活の変化についてできるだけ分かり易く解説します。	門脇	
10	土の中からの音色(新)	遺跡から出土した楽器について紹介し、昔の人々がどのように音を楽しんでいた考えてみましょう。子ども向けに琴のレプリカをつくる活動もできます。		
11	ひとと動物の考古学(新)	狩りの対象として、道具の素材として、家畜やペットとして、信仰の対象やシンボルとして、などなど人と動物の歴史について、県内を中心とした出土事例から分かり易く紹介します。動物の骨や毛皮の標本も手にとっていたことができ。遺跡から得られた情報を中心に分かり易く紹介します。		
12	魚の考古学(新)	魚類と日本人の長い関わりについて、山陰地方の事例を中心に紹介します。子ども向けに動物考古学体験も行うことができます。		

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

13	毛皮と皮革の考古学 (新)	歴史の中で重要な役割を果たした毛皮と皮革について、関連する考古資料や文献史料、皮なめしの実験成果等を通して、その実態を探ります。	門脇	
14	牛馬の考古学 (新)	牛馬は長きにわたって人の生活を支えてきただけでなく、信仰の世界にも多く登場する動物です。近年増加してきた県内での出土事例を中心に古代の牛馬のあり方に迫ります。		
15	地域に残る知られざる 歴史	うちの近くには歴史的なものなど何にもないと思っておられる方が多いのでは？いえいえ、そんなことはありません。昔があってこそ今がある。地域に残るさまざまな歴史について紹介します。	中森	概説
16	お墓の話	古代から現代まで、人を葬る行為は繰り返し行われてきました。その繰り返しの中で、お墓の形やその上に立てるもの（石造物や卒塔婆）が変わり、地域的な特色も出てきます。地域的な姿から西日本のようすまで、さまざまなテーマについてお話しします。		
17	遺物の保存について	発掘調査によって土中から掘り出された様々な遺物は、どのような処理をへて保存されるのか。木製品を中心に解説します。	荻尾	
18	史跡の楽しみ方や可能性を探る	史跡とは何か？鳥取県内にある主要な史跡を素材としながら、文化遺産としての史跡の価値を再考し、その楽しみ方や可能性を探ります。 *詳細についてはリクエストにもお応えします。	濱田	
19	石器の作り方	旧石器時代から弥生時代までの石器作りの変化を、鳥取県で確認されているものを中心に、実演しながら解説します。	高橋	
20	山陰の旧石器時代	旧石器時代の山陰地方の様子について、県内や周辺地域の資料を基にお話しします。日本列島の旧石器時代の概説についてもお話しします。	北	旧石器
21	石器から考える生活と 交流 (新)	旧石器時代～弥生時代を中心に、鳥取県内各地からは様々な種類の石器が出土しています。人々の生活や交流と結びつけながら、石器の面白さをお話しします。	水村	
22	山陰の縄文時代の暮らし	湖山池周辺や大山山麓での近年の発掘調査資料などを中心に、山陰の縄文時代の様子についてお話しします。	北	縄文
23	鳥取東部における農耕 社会のはじまりについて	縄文時代晩期から弥生時代前期にかけての大きな変化については、鳥取県東部に関しては不明な点が多かったが、近年の発掘調査において良好な資料が発見され、明らかになりつつあります。こうした最新の資料を用いて当該地域のこの時代における展開について説明します。	下江	縄文 弥生
24	いにしへの木材利用と 自然環境 (新)	鳥取県は、縄文時代から古代にかけて多種多様な木器が数多く出土している事で有名です。最近の研究結果から、こうした木器の製作と自然環境は、相互に影響を与えあっている事が明らかとなっており、それは、現代に生きる我々と自然との関係にも通じています。		縄文～ 古代
25	小さな小さな穴から探る 「弥生時代のはじまり」	土器の表面に残る小さな穴から、昔の人々が栽培していた植物の種を探し出し、山陰地方における弥生時代のはじまりにアプローチ。種実圧痕の調査方法も紹介します。	濱田	弥生
26	弥生時代の土器について	発掘調査の成果を元に、鳥取県で出土する弥生時代の土器の特徴についてお話しします。	濱本	

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

27	ふしぎな弥生土器から見える環日本海交流	弥生時代後期（約1,800年前）の限られた時期に「台付装飾壺」と呼ばれているふしぎなかたちや文様のある土器が、因幡地方を中心に西は香取島から東は富山県までの広い範囲で分布しています。 この土器を通して、弥生時代の人々の交流や土器にこめた願いを見つめてみたいと思います。	松井	
28	大型器台形土器が語る鳥取県の弥生時代	弥生時代後期（約1,800年前）を中心に、鳥取県域ならではの特徴的な土器が出土します。 この土器がどのような目的でつくられ、使われたのかを通じて、この地域の弥生社会の特徴を考えてみたいと思います。		
29	弥生時代のお墓とムラ	弥生時代の後期（約1,900年前から1,750年前）の鳥取県域のお墓とムラの有り様から、古墳時代前夜の階級社会への階段を登りつめつつあった弥生時代のようすを見つめます。		
30	弥生の至宝 花弁高杯	青谷上寺地遺跡で出土した花びらのような装飾を持つ高杯（たかつき）は、弥生時代の造形品の中でもきわめて壮麗なものです。この高杯の製作技術や分布などから、その特徴に迫ります。	茶谷	
31	弥生の建築	青谷上寺地遺跡ではおよそ7000点もの建築部材が出土しています。これらから見えてくる弥生時代の建物や建築技術について、解説します。		
32	鉄器からみた弥生時代の山陰	全国的に見ても屈指の出土量を誇る鳥取県そして山陰地域の弥生時代鉄器。そこからみた山陰地域の弥生時代社会について「日本海沿岸地域との交流」をキーワードに紹介します。	高尾	
33	弥生時代の色（新）	青谷上寺地遺跡では、東アジア最古となる緑色の顔料が塗られた盾が確認されました。出来る限り当時の素材や方法を駆使し、宮大工さんと奮闘しながら制作に取り組んだ「緑土の盾復元プロジェクト」の舞台裏やこぼれ話も交え、当時の色彩について語ります。	弥生	
34	弥生時代の玉作からみた交流の姿（新）	近年鳥取県内では、東部エリアを中心に多くの玉作遺跡が発見されています。それらの遺跡はどのような関係にあるのか？最新の成果と「交流」をキーワードに、当時の日本海沿岸地域の動きを探ります。		
35	遺跡から出土する種実（新）	低湿地遺跡からは多くの種実（トチやクルミ）が出土しますが、これまであまり注目されていませんでした。大橋遺跡から出土した2,000点以上の種実は、一体だれが食べたものなのか？実際にクルミを割った実験を通して、遺跡に残された種実の正体を探ります。		
36	弥生時代のアンバー（琥珀）ロード（新）	青谷上寺地遺跡から出土した琥珀の塊は、一体どこから運び込まれたものなのか？最新の理化学分析とこれまで判明している交易関係から、琥珀のふるさとと交流の姿を探ります。	水村	
37	弥生時代の家について	弥生時代には様々な形の家がありましたが、終わり頃には隅の丸い四角い形に統一されていきます。こうした形の変化と建物の上屋構造の変化の関係について、焼けた竪穴住居を素材として紹介します。	馬路	
38	秋里遺跡の弥生時代の井戸	秋里遺跡からは弥生時代後期（約1800年前）の木製の井戸枠と配石をもつ特殊な井戸が見つかりました。調査の結果わかった井戸の設置工程や廃絶の様子を説明し、全国の井戸の出土例と比較を行います。	柁家	
39	秋里遺跡の発掘調査について	平成28年から平成29年にかけて鳥取市秋里遺跡の発掘調査が行われました。見つかった弥生時代の特殊な井戸や破鏡などを紹介する他、様々な種類の住居を復元したイラストを使いながら調査の成果を説明します。		

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

40	砂に埋もれた大集落 ～長瀬高浜遺跡の紹介～	弥生時代から中世までの幅広い時代の遺構が見つかったいる県中部の長瀬高浜遺跡について調査結果をもとにして紹介します。	中山	弥生
41	とっとり弥生の王国を 揺る！～甕の弥生の国 邑と地下の弥生博物館～	魏志倭人伝の世界を彷彿とさせる大規模な弥生時代集落・妻木晩田遺跡と、弥生人の脳に代表される数々の発見から地下の弥生博物館と呼ばれる青谷上寺地遺跡を通じてみえてくる鳥取の優れた弥生文化をご紹介します。	中原	
42	「弥生の王国」鳥取の すがた	「弥生の王国」鳥取での発掘調査の様子や、そこから見える人々の生活の姿、妻木晩田遺跡でのムラの復元について語ります。	岡野	
43	日本海を望む「倭の国 邑」 妻木晩田遺跡	「倭人は帯方の東南大海の中にあり、山島によりて国邑（こくゆう＝大きな村）をなす」。「魏志倭人伝」冒頭の一節を彷彿とさせる弥生時代の大规模集落「妻木晩田遺跡」の盛衰と時代背景にせまります。	濱田	
44	青谷上寺地遺跡－弥生 の港湾集落－	海を舞台とした交易拠点、青谷上寺地遺跡。その豊富な出土品から、弥生時代の人・モノ・心に迫ります。	湯村	
45	青谷上寺地遺跡にみる 弥生人の願いと祈り	弥生の人々の願いや祈りについて、卜骨や祭祀遺物など、青谷上寺地遺跡の出土品や調査成果から考察します。	北浦	
46	「破鏡」の話～鏡に こめられた思い～	青谷上寺地遺跡や妻木晩田遺跡からは、青銅製の鏡の破片（破鏡）が見つっています。破片となっても大切にされた鏡、そこにこめられた弥生人の思いについて他地域の事例も踏まえながら解説します。	君嶋	
47	青谷上寺地遺跡を知る	平成28・29年度に行った第17次調査の成果を踏まえ青谷上寺地遺跡の魅力をお伝えします。	大川	
48	弥生から古墳時代の松 原田中遺跡からみた日 本海交流	近年発掘調査が行われた鳥取市所在の松原田中遺跡では、近畿や北陸、四国や北部九州など広域にわたる各地との交流の証となる遺物が出土しました。こうした出土品から明らかとなった当時の交流活動の一端をご紹介します。	小山	
49	淀江潟と東郷湖周辺の 弥生時代から古墳時代 の集落	鳥取県にはたくさんの潟湖が存在したことがわかっていますが、その中から淀江潟と東郷湖周辺の弥生時代から古墳時代の遺跡を取り上げて、集落の様子や社会のあり方について、両地域を比較しながら紹介します。	馬路	
50	「こども」の埋葬	弥生時代から古墳時代の埋葬施設には様々な規模や形態があります。その中でも「小さい埋葬施設」（土器を使用した棺など）を中心に取り上げ、当該期の墓制について説明します。	森藤	弥生～ 古墳
51	弥生時代の大型掘立柱 建物について（新）	鳥取県大山町（旧名和町）所在の茶畑第1遺跡で見つかった、弥生時代から古墳時代にかけての大型の掘立柱建物について紹介します。	西川	

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

49	東郷池周辺の歴史と環境	かつて潟湖であった東郷池の周辺は、弥生時代以降、大規模なムラや大型古墳、中世には荘園、近世には鳥取藩の藩倉が置かれるなど、歴史的に地域勢力の拠点となる重要な地域でした。時代ごとにその姿をたどりながら、いにしへの鳥取の姿を考えます。	岡野	弥生～近世	
52	鳥取県の前期古墳～山陰古墳時代の幕開け～	多様性に富んだ鳥取県の前期古墳について周辺地域とも比較しながら検討し、山陰地方の古墳出現の謎について解説します。	君嶋	古墳	
53	白鳳の精華～上淀廃寺跡にみる古代寺院の実像	彩色仏教壁画の発見で話題となった上淀廃寺跡の発掘調査成果から明らかになった白鳳時代の地方寺院の姿を紹介し、古代山陰の先進性を探ります。	中原	古代	
54	鳥取県の火葬墓	現代の日本ではごく一般的に行われている火葬ですが、もともとは古代になってから仏教とともに伝来したものです。奈良時代の天皇の火葬をきっかけに、皇族・貴族層をはじめとし、やがて地方の官人層にも広がりましたが、平安時代には下火になっていきます。ここでは鳥取県内で見つかった火葬墓を紹介しながら、火葬を行う意味や、鳥取県の火葬墓の地域性についてお話しします。	家塚		
55	青谷横木遺跡の出土文字資料	青谷横木遺跡から出土した文字資料（木簡・墨書土器）を紹介し、古代の青谷横木遺跡について解説します	梅村		
56	会下・郡家遺跡の古代	平安時代の大きな建物跡や、限られた場所でしか出土しない緑釉陶器が見つかった会下・郡家遺跡のようすについて、分かりやすく解説します。	田中		
57	青谷平野からみた古代山陰道のすがた	青谷横木遺跡や青谷上寺地遺跡では古代山陰道と考えられる大規模な道路遺構が発見され、当時における最高水準の土木技術が駆使されていたことが判明しています。最新の調査成果から古代山陰道の実像に迫るとともに律令国家の地方支配について考えます。	坂本		
58	『女子群像』板絵と青谷横木遺跡（新）	国宝高松塚古墳壁画に次ぐ国内2例目の発見となった『女子群像』板絵。青谷横木遺跡の調査成果とともに『女子群像』板絵が出土した背景や謎に迫ります。	坂本		
59	たたら製鉄の源流を探る！（新）	最新の調査成果を基に鳥取県内の古代・中世における鉄生産について解説し、中国山地で独自の発展を遂げ、日本古来の製鉄技術であるたたら製鉄の源流に迫ります。	坂本		
60	因幡・伯耆の役所と古代寺院（新）	鳥取県内の古代における役所や寺院について解説し、古代社会の実像に迫ります。	坂本		
61	古代・鳥取の塩づくり	鳥取県内から出土した塩を作るための土器をもとに、海水から塩ができるまでの工程や、塩が運ばれた遺跡、その使われ方などについてみていきます。	八峠		
62	鳥取平野の人形・馬形（新）	大柵遺跡をはじめとして、県内で近年多量にみついている人形・馬形などの木製祭祀具について、発掘調査成果からみる変遷と出土状況から考えられるその使用方法を解説します。	大野		
63	古代から中世にかけての土製炊飯具	鳥取県の東部から出土した土器を中心に、煮炊きを使用した道具の移り変わりについて紹介します。	玉木		古代～中世
64	古代から近世の交通について	人類は、馬や車、船や飛行機といった乗り物や道路や港といった施設をつくって陸地や海や河川、さらに大空を移動して、その活動範囲を広げてきました。それは当時の政治や軍事、経済といったものと深く結びついています。その歩みについて、県内の遺跡を中心に紹介します。	下江		古代～近世

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

65	検地帳から中世の景観を復元する	日南町の笠木地区には江戸時代初めの検地帳が完全な形で伝えられています。その解読から復元できた中世笠木郷の景観と、現地に今も遺る面影を紹介します。	高橋	
66	因幡・伯耆における中世の屋敷と墓	鳥取県内で行われた発掘調査の成果から明らかになった、古代から中世にかけての集落や墓などの移り変わりのようすを紹介します。		
67	山陰東部の海城について	山陰海岸ジオパークは世界でも有数の地質遺産を含む地域ですが、その地形を利用して中世、特に戦国時代には多くの海城が築かれました。当時の景観を復元しつつも残る海城について紹介します。	八峠	
68	因幡・伯耆の古城探訪(新)	鳥取県内には500余りの中世城館があります。県内のどの地域にどんな城があるのかをご紹介します。山城の見どころや、面白さを一緒に学びましょう！	大川	
69	埋められた大量の銭貨	約15,000枚もの埋蔵銭が発見された下坂本清合遺跡。県内では4例目の珍しい発見となる一括埋蔵銭の特色やその背景について解説します。	小口	中世
70	山陰地方の石造物について	道や田畑の脇、墓地の一角などいたるところにある五輪塔や宝篋印塔。それらをよく見てみると、実は形や大きさ、使われている石などいろいろ違っていることがわかります。それはつくられた時期や地域による違いであり、山陰におけるそうした様相を紹介します。		
71	中世陶磁器を考古学的にみてみると	とかく陶磁器というと、博物館に飾られている「美術品」、あるいは「骨董品」を想像される方が多いのではないのでしょうか？ところが発掘調査をしていると、そうしたお宝の割れた破片が結構出てくるのです。何故そのような陶磁器が出るのか？誰が使っていたものなのかなど、その価値だけでなく、そこにある意味などを考古学的に鑑定します。	中森	
72	鳥取県のお城の魅力	地域のシンボルともいえるお城。その魅力に迫るとともに、天神山城・鳥取城・米子城など発掘調査された事例を中心に、城の構造や瓦・陶磁器といった出土遺物などについて紹介します。		
73	戦国の知将 亀井茲矩	戦国時代末期～江戸時代初頭にかけて因幡国西半を治めた亀井茲矩は、新田開発や治水、朱印船貿易、鉱山開発など様々な事業を行った戦国大名として知られています。これらの事業の痕跡は今も残っており、それらを紹介しながら、亀井茲矩の実像に迫ります。	下江	中世～江戸
74	鳥取池田家32万石～揚羽蝶の時代～	江戸時代を通して因幡・伯耆を支配した鳥取藩(池田家)は、32万石という全国でも12番目に位置する大藩でした。鳥取藩の政治・経済・文化の実像を資料から探ります。		
75	鳥取藩台場探訪～幕末期の攘夷思想と西洋化～	江戸時代末期、黒船来航による緊張から幕府・諸藩により海岸砲台(台場)が築かれ、鳥取藩でも9ヶ所の西洋式台場を構築、現存する6台場跡が国史跡に指定されています。これらの台場跡と絵図等から、当時の攘夷思想と西洋化について考えます。	中原	江戸
76	幕末の沿岸警備～台場築造と大砲調達～	江戸時代後期になると日本の沿岸に外国船が現れるようになり、その中には日本との通商を求める動きもありました。このため、国防の緊急性に切迫感をもった幕府は、各藩に沿岸警備の強化を求めます。その代表例が台場、砲台であり、そこに据えられた大砲です。全国の台場を俯瞰して各藩の台場の特徴を見ながら、その一方で、台場や砲台にも据えられた大砲の製造、調達方法の変化について佐賀藩などを例に紹介したいと思います。	松井	
77	とっとりの鉄道遺産～若桜鉄道と法勝寺電車～	鉄道遺産は、近代化遺産あるいは産業遺産としての文化的価値が認められています。現役の鉄道遺産として国登録有形文化財となっている若桜鉄道と、廃線となった鉄道遺産として車両等が県保護文化財に指定されている法勝寺電車を取り上げて、とっとりの鉄道遺産の魅力をさぐります。	中原	近現代
78	被災地の考古学～東日本大震災復興支援調査の現場から～	東日本大震災で大きな被害を受けた福島県。地震発生後5年が経過し、復興に向けた取り組みが徐々に進んでいます。これまでの復興事業に伴う調査成果、遺跡から災害をどう学ぶか解説します。	小口	その他の文化財

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

79	文化財をまもる	東日本大震災や熊本大地震は、テレビなどでみてその惨状を知ってはいたけれど、鳥取に住む我々にはどこかピンとこないものだったのではないだろうか？それが、平成28年10月21日の鳥取県中部地震を体験し、人ごととしてはいけないことも実感したはず。大きな震災などが起きた場合、当然人命やライフラインの確保が優先されるだけに、貴重な文化財の保護対策については、日頃から意識しておくことが必要です。 文化財をまもるための日常管理や被災後の対策など、鳥取県中部地震の経験を踏まえ、お話しいたします。	中森	その他の文化財
80	和紙のはなし	ペーパーレスといわれる昨今。とはいえ、やはり紙は我々普通の生活において身近な存在であり、また一昨年には和紙がユネスコの世界無形文化遺産に登録されたことで、改めてその生産技術が注目されています。 日本において紙が生産され始めたのは飛鳥時代のこととされますが、その後遅くとも奈良時代の後半には鳥取（当時は因幡・伯耆の2国）でも紙が漉かれ、奈良県・正倉院には今もその時の記録が残っているほどです。 伝統的な紙漉き技術が全国的に減少していく中、県内では鳥取市青谷町と佐治町の2箇所で行われており、鳥取県指定無形文化財になっています。こうした和紙の歴史や技術などについてお話しします。	原島	
81	火の神様の話	人々は生命や財産を脅かす火事を避けるため、火の用心をするとともに人知を超えた加護を願って火の神様への篤い信仰をしてきました。その中でも京都から広がった愛宕信仰について、鳥取県内の特色ある行事を紹介しながらお話しします。	原島	
82	鳥取の年中行事	毎年繰り返される年中行事、そこには五穀豊穣や厄災除去など、昔から大切な願いが込められてきました。今でも守り伝えられている国・県指定無形民俗文化財を中心に、特色ある鳥取の年中行事を紹介いたします。	原島	
83	鳥取の民俗芸能	鳥取県内各地域に伝わる多彩な民俗芸能。民俗芸能という言葉には馴染みがなくても、お祭りや踊りの太鼓や笛・鉦の調べを聞くと、自然と心が浮き立つ人も多いでしょう。そんな魅力ある民俗芸能について、特色や見所を映像を交えて紹介します。	松本	
84	建築から見る生活のうつりかわり	地域性や人々の生活を映し出す、住まい。そこには様々な社会的背景や生活のための工夫を見ることができます。住まいを通して、鳥取県内の江戸時代からの生活の変化を、他県の例も交えてお話しします。	松本	
85	近代の文化遺産～近代化遺産と近代和風建築～	鳥取の近代化を支えた近代化遺産と、近代和風建築。二つの総合調査の結果をもとに、近代の社会的背景と歴史的建造物を、地域性と絡めてお話しします。	松本	
86	身近な文化財建造物を活用する	平成8年から国レベルで始まった、所有者主体で「活用しながら保存する」ための登録文化財制度。県内外の活用例と、登録制度の可能性について紹介します。	松井	
87	まちの個性を物語る近代建築を訪ねて	日本国内で震災や空襲の被害を逃れた都市には、その都市のなりたちを特徴づける近代建築が残っています。学園都市として学校建築に特徴があったり、軍港としての工場や倉庫などに特徴があったり・ そうした近代建築から垣間見ることができる昭和前期までの各都市の成り立ちの特徴について、建物の個性を通じて見つめてみたいと思います。	松井	
88	台北の近代建築見て歩き	日清戦争（1894-1895）の結果、日本の植民地となった台湾。植民地化後、台湾総督府などの日本人建築家によって多くの近代洋風建築が建てられました。台北には官衙建築、学校建築をはじめとする多くの近代洋風建築がいまも多く残り、しかもそのほとんどが当時とほぼ同じ目的で使われたり、リノベーションされて保存活用されています。 ツアー観光ではまず見るチャンスがほとんどない、そうした建造物をご紹介しながら、南国、台湾ならではの近代洋風建築の特徴もご紹介します。	中山	
89	溪流の王者「オオサンショウウオ」について	溪流の中の百獣の王とよばれるオオサンショウウオ。山奥の池に人知れず生息していると思われがちですが、実は私たちの身近な河川で生活しています。謎の多いオオサンショウウオの知られざる実態や生活環境について紹介します。	企画研究担当	
90	郷土の歴史発見（新）	みなさんがお住まいの地域の歴史をわかりやすく解説します。	企画研究担当	

「出前講座」テーマ一覧

平成30年度

[埋蔵文化財センター体験メニュー]				
91	檜扇(扇子)をつくろう! (新)	青谷横木遺跡でみつかった檜扇をもとに、オリジナルの檜扇を作ってみませんか?	企画研究担当	ワークショップ
92	火起こしワークショップ (新)	古代の火起こし方法について解説を行います。そのあとは、実際に火起こし体験をしてみましょう。	茶谷	
[妻木晩田遺跡体験メニュー]				
93	妻木晩田遺跡を生かした活用方法	弥生時代の集落遺跡である妻木晩田遺跡をフィールドにした遺跡活用の実践例を紹介します。	濱本 莉尾 潮	体験講演